



言語障害通級指導学級

言語障害通級指導学級、通称「ことばの教室」は、福生第七小学校に設置してある通級指導学級です。



ことばの教室（正式名称：言語障害通級指導学級）は、通常の学級に在籍している言語障害のある児童の支援の場である。通級児童の多くは週1回程度、ことばの教室に通い、言語の課題に特化した支援を受けている。本市には福生第七小学校に設置されている。

教室の概要

- 福生市内の通常の学級に在籍する小学校第1学年から第6学年までの児童が対象。
- 一対一の個別の言語指導を行う。必要に応じて、小グループでの活動も実施する。
- 指導内容については、児童の実態や保護者及び担任のニーズを踏まえ決定する。
- 年度途中でのことばの教室への入級や退級も可能である。
- ことばの教室は通級指導学級であり、基本的には通級には保護者による送迎が必要である。ただし、福生第七小学校の児童の場合、保護者による送迎は必要ない。



指導室



プレイルーム

対象とする障害の種類・程度、標準指導時間

障害の種類	障害の程度	標準指導時間
言語障害者	口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、その他これに準じる者（これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限り、通常学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする者	年間 35～280 単位時間 (週1～8単位 時間程度)

※障害の種類・程度は、平成25年10月4日付25文科初第756号「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」による。

ことばの教室での指導内容

ことばの教室では、児童の実態に合わせて指導を行う。下記は指導の一例であるが、児童の状態によっては行わない場合もある。

<発音の発達がゆっくりな児童への指導>

- 正しい音を聞き分ける力を高める。
- 舌を思ったとおりに動かせるように指導する。
- 舌の正しい位置を教え、正しい発音が身に付くようにする。

<吃音のある児童への指導>

- 吃音についての正しい理解が深まるように指導する。
- 吃音のことで困ったときに対処できるようにする。
- 吃音が一時的に出にくくなる話し方の指導をする。
- 必要に応じて、在籍学級で吃音理解授業を行う。

ことばの教室の運営体制



ことばの教員

- 通級児童への個別指導、アセスメントの実施
- グループ活動の実施（学期1回程度）
- 在籍学級担任との連絡調整及び支援方法に関する助言
- 保護者面談及び家庭での支援に関する助言
- ことばのアセスメント（毎週水曜日）の実施
- 教育支援委員会への出席 等

言語に課題のある児童の早期発見と早期支援

吃音や構音障害といった言語面の問題は、周囲からのからかいや指摘を受けやすく、自己肯定感の低下や不登校などにつながりやすい。また、言語発達の遅れは学習の遅れにつながることも多い。このような二次的な問題を予防するためにも、言語に課題のある児童については、できるだけ早期に発見し、支援へとつなげることが重要である。ことばの教室では教育相談室と連携し、毎週水曜日にことばのアセスメントを実施している。そこでは、言語面に課題があると思われる児童を対象に言語面のアセスメントを行い、課題の早期発見に努めている。

言語障害通級指導学級における 自立活動の指導

自立活動の指導内容の設定までの「流れ図」の事例を以下に紹介する。

事例の概要等



学年	小学校 第2学年
障害の種類・程度や状態等	言語障害。話す、聞く等の言語発達の遅れ。自分の言いたいことをうまく表現できず、自信がない。
事例の概要	意味を理解して使える言葉を増やし、自分の気持ちや考えを周りに伝えられるようになることで、自信をもって物事に取り組めるようにする指導事例

自立活動の「流れ図」

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ・生き物が好きで友達と協力して、虫取りをしたりお世話をしたりすることができる。
- ・自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えることができず、諦めてしまうことがある。
- ・知っている言葉が乏しく、担任の一斉指示を理解することが難しいため、個別に丁寧に伝える必要がある。
- ・国語に苦手意識があり、自信がない。算数の文章問題にもつまづきが見受けられる。
- ・工作や料理などが得意で、意欲的に取り組む。

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言いたいことがうまく表現できずに自信がない。 ・生き物が好きでよくお世話をします。 ・国語全般や算数の文章題に苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の活動におけるルールを理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の一斉指示を理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作や料理などが得意で、意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことがあっても言葉がまとまらず諦めてしまう。 ・経験したことや、様々な事物を関連付けながら言語化することが難しい。

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・学習や生活の中で意味を理解している言葉が限られており、指示を理解して行動することが難しい。
- ・自分の言いたいことが相手に伝わりにくかったり、相手の言うことが理解しにくかったりすることから、他者とのかかわりが消極的になりがちである。

②-3 収集した情報(①)を5年後の姿の観点から整理する段階

- ・自信をもって自分の気持ちや考えを他者に伝えることができる。
- ・コミュニケーションに対する意欲を高め、他者と積極的に関わることができる。

③ ①を基に②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・意味を理解して使いこなせる言葉が限られている。
- ・言葉と言葉を関連付けて覚えたり、順序よく相手に話したりすることが難しい。
- ・言語による他者とのやりとりに自信がもてず、積極的にコミュニケーションを図ることが難しい。



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事物を関連付けながら言語化する活動を通じて、語彙の習得や上位概念、属性、関連語等の言語概念の形成を促す。 ・相手の話を正確に聞き取り、理解する力を高める。 ・相手に伝わったという成功体験を積み重ねることで自信を高め、周囲と円滑にコミュニケーションを図ることができる力を高める。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める。 ○相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める。 ○周囲の人と言葉でやりとりをする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 事故の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント	
<p><身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める>ために、人(1)(2)環(5)コ(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧アである。</p> <p><相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める>ために、人(1)(2)(3)(4)環(2)(5)コ(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧イである。</p> <p><周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める>ために、心(3)人(2)(3)(4)環(2)コ(1)(2)(4)(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧ウである。</p>	

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階		
	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事、国語の内容に関連する言葉などについて、写真や動画などの視覚教材を手掛かりに言葉の理解を深める。 ・言葉の仲間集め、オリジナル言葉辞典作りなどを行い、語彙を増やす。 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示に従って体を動かすゲームや3ヒントクイズなど、楽しみながら相手の話を聞いて理解する力を高める。 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児が得意な活動や、学校行事など自分が経験したことを順序よく伝える力を高める。

保護者へのお知らせ

ことばのことで 気になる様子はありませんか？

◎ 発音が気になる(癖がある・ほかの音に置き換わっているなど)

◎ 赤ちゃん言葉が抜けない



おとうしやんとあしよがの
だいしゆき！
じゆつと あしよびたい

◎ 文字を読むことに関心がない

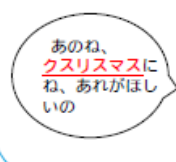
◎ 本に何と書いてあるか尋ねない



絵ばかり見て、
文字に全然興味が
ないみたい
本に興味ないの
かしら…

◎ 単語を正確に言えないことがある

◎ 音の順番や数が合っていない



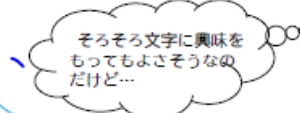
あのね、
クリスマスに
ね、あれがほし
いの



それでね、
エレベーターに
のってね…

◎ 文字や文字らしきものを書きたがらない

◎ 書くことに関心がない

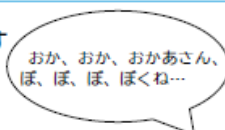


そろそろ文字に興味を
もってもよさそうな
けど…

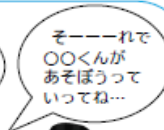
◎ 初めの音やことばの一部を、何回か繰り返す

◎ 初めの音を引き伸ばす

◎ 言いたいことがあるのに、最初のことばが出づらく、
力を込めて話したり間があいたりする(顔を
ゆがめたり、体を動かしたりすることも)



おか、おか、おかあさん、
ぼ、ぼ、ぼくね…



そーーれで
〇〇くんが
あそぼうって
いってね…



気になる様子があったら ご相談ください

言語障害通級指導学級では、保護者向けに、「ことばのことで気になる様子はありませんか？」を作成している。普段の子どもの様子を例示することで、保護者が通級指導の必要性を考えやすいようにしている。

これらの子どもの様子から、どのような指導が必要なのか、言語障害通級指導学級や特別支援教室のどちらが適しているかについては、巡回相談心理士の助言を受けつつ、障害の種類や程度、在籍学級で子どもが感じている困難さなどを踏まえ、校内支援委員会を中心に十分に協議していくことが大切である。